

文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 美術展 2018 年秋・公式企画ラインナップのご案内

日仏友好 160 年を記念した日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」は、7 月に公式オープニングを迎え、好評を博しています。国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、この秋も、下記のとおり多彩な展覧会を開催します。

メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて本展覧会をご紹介下さいますよう、何卒宜しく願いいたします。

■「京都の宝一琳派 300 年の創造」展

～国宝《風神雷神図屏風》をヨーロッパ初公開～

桃山時代後期に京都で生まれた琳派は、世代を超えた私淑により受け継がれた他に類を見ない美術の流派です。その潮流は、本阿弥光悦、俵屋宗達から、尾形光琳・乾山、近代の神坂雪佳に至るまで、古典的な要素を含みつつも、常にその時代における新しい美として受け継がれてきました。

本展覧会は、日本国内でも公開される機会の稀な琳派の傑作を、特に京都での創造に絞り、国宝、重要文化財を含めて選りすぐって展示します。琳派芸術の中心をなす絵画をはじめ、書跡、陶芸、漆工などの調度品も取り上げ、日本美術の粋ともいえる琳派の総合性を示すとともに、その絢爛豪華な様式美、現代の生活美術全般にも通じる斬新なデザイン感覚を紹介いたします。

展示は 4 つのセクションで構成され、第一部「琳派の誕生：光悦と宗達」、第二部「新しい息吹：光琳と乾山」、第三部「琳派の革新：始興、芦舟、芳中」、最後に、第四部「20 世紀に琳派を受け継ぐ作家：神坂雪佳」と続きます。



国宝「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 京都・建仁寺蔵 江戸時代

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

2016年、パリのアンヌ・イダルゴ市長は京都を訪問し、京都・建仁寺に伝わる国宝、《風神雷神図屏風》をご鑑賞になりました。同作品がこれまでに海を渡ったのは、1996年米国・ダラス美術館での展覧会のみで、ヨーロッパでは今回が初公開となります。「ジャポニスム 2018」の一環として、琳派を代表する《風神雷神図屏風》のフランスでの貴重な展示が実現する運びになりました。

- 会期：2018年10月26日（金）～2019年1月27日（日）
前期：10月26日～12月9日、後期：12月15日～1月27日
会期中、前期・後期で展示替えがあります。
休館日：毎週月曜、12/10～12/14（展示替えによる休館）、12/25、1/1。
- 会場：パリ市立チエルヌスキ美術館
（7 avenue Vélasquez, パリ市8区）
- 主催：国際交流基金、京都国立近代美術館、細見美術館、パリ市立チエルヌスキ美術館/パリミュゼ
- キュレーター：細見良行（細見美術館長）、松原龍一（京都国立近代美術館副館長）
マヌエラ・モスカティエロ（パリ市立チエルヌスキ美術館日本美術担当）

■主な出品作品

国宝 《風神雷神図屏風》 俵屋宗達筆 京都・建仁寺蔵
重要文化財 《舞楽図屏風》 俵屋宗達筆 京都・醍醐寺蔵
重要文化財 《鳶の細道図屏風》 伝俵屋宗達筆・烏丸光広賛 京都・相国寺蔵
重要文化財 《草花図屏風》 深江芦舟筆 福田美術館準備室蔵

■関連イベントのお知らせ

琳派展の開幕を記念し、関連イベントを実施します。

- オープニング記念講演会
 - ・ 10月26日（金）16:00～ 於 チエルヌスキ美術館
奥平俊六（大阪大学名誉教授）「宗達と光琳」（仮題）
 - ・ 10月27日（土）15:00～ 於 パリ日本文化会館
本展キュレーター、日欧の日本美術専門家による琳派展国際シンポジウムを予定。

会期中に行う関連イベントの詳細は、追ってチエルヌスキ美術館ホームページ（www.cernuschi.paris.fr/）に掲載予定です。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■「縄文 - 日本における美の誕生」展

～国内で話題の展覧会がパリに上陸。国宝 6 件、重要文化財 33 件を展示～

この夏、東京国立博物館で開催され、35 万人を超える入場者を動員して大きな話題を呼んだ特別展「縄文 - 一万年の美の鼓動」。ジャポニスム 2018 では、パリ日本文化会館において同展を再構成した特別展を開催します。

1998 年、国際交流基金がパリ日本文化会館で開催した「縄文展 (Jōmon, l'art du Japon des origines)」は、日本の芸術に造詣の深いフランス人に新鮮な驚きとともに迎えられ、多くの人々を魅了しました。

今回、20 年ぶりにパリで開催される本展は、さらに優品を集め、縄文時代の美を体現する国宝火焰型土器をはじめとした土器に加え、土偶や装身具など、国宝 6 件、重要文化財 33 件を含む出土品を一堂に紹介し、日本美の原点である縄文の美と、それを生み出した縄文人たちの豊かな精神文化の魅力を提示します。

○会期：2018 年 10 月 17 日 (水) ～12 月 8 日 (土)

○会場：パリ日本文化会館

(101 bis, quai Branly, パリ市 15 区)

○主催：国際交流基金、東京国立博物館、文化庁

○協力：NHK、朝日新聞社、全日本空輸株式会社

○キュレーター：

原田昌幸 (文化庁美術学芸課主任調査官)

品川欣也 (東京国立博物館学芸研究部調査研究課考古室主任研究員)



重要文化財<遮光器土偶>縄文時代(晩期)・前1000～前400年
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土 東京国立博物館蔵



国宝<土偶 仮面の女神>縄文時代(後期)・前2000～前1000年
長野県茅野市中ッ原遺跡出土 茅野市尖石縄文考古館保管

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■ 主な出品作品

○ 国宝 6 件

「火焰型土器」「土偶 縄文のビーナス」「土偶 縄文の女神」「土偶 仮面の女神」「土偶 合掌土偶」
「土偶 中空土偶」 (※縄文時代の文化財のうち、国宝指定の作品が全て出品されます)

その他重要文化財 33 件を含む、全 64 件を展示。

■ キュレーターからのコメント

「美」とは、人々が持つ最もポジティブな感情の一つでしょう。この「美」の感情が体系化された時、そこに「美術」が生まれ、それはやがて「芸術」に昇華します。

一万三千年以上前に始まったと言われる縄文時代。初め人々は、狩猟採集に使う石器や、煮炊きに使う土器に、純粋に機能性のみを求めました。無駄を省いた形、そこに先ず「用の美」が生まれました。

日本における美の誕生、です。縄文時代草創期の尖底土器や、漁労用の骨角器、そして大形の磨製石斧など、そこに無駄な装飾や華やかな文様はありません。それから 1 万年間、縄文時代には多彩な道具が作られ、簡素な美がある一定の秩序を保ちながら継続的に発展して、様々な装飾に富む土器や土偶を生み出しました。

「土器型式」「土偶型式」の確立です。縄文時代中期の火焰型土器、山形県西ノ前遺跡から出土した土偶「縄文の女神」。これらは、縄文世界における、秩序の中の美の到達点と言っても過言ではありません。

また縄文時代後期は、美意識変革の時代でしょう。長野県中ツ原遺跡の土偶「仮面の女神」をご覧ください。そこには、現実世界を超えた、人々の想念から生み出されたひとがた像に、縄文人の祈りの意識が凝縮されています。

本展は、1998 年にパリで開催された「JOMON」展から 20 年。改めて縄文時代を知りたい、と言うフランスの皆様からのご要望で実現した展覧会です。

展示は、当時驚きの目を持って迎えられた遮光器土偶や火焰型土器に、その後新発見された資料や、今まで殆ど公開される機会がなかった秘蔵の資料を多数加えて構成されます。

好奇心旺盛なフランスの皆様に、再び縄文文化の奥深さ、土器や土偶の形の面白さ、そこに込められた縄文時代の人々の美意識を体感して頂きたいと思います。

原田昌幸 (文化庁美術学芸課主任調査官)

■ 関連イベント

会期中、さまざまな関連イベントを実施します。

○ オープニング記念講演会

・ 10 月 16 日 (火)

井上洋一氏 (東京国立博物館副館長) とロラン・ネスプルス氏 (考古学博士、フランス国立東洋言語文化学院 [イナルコ] 准教授) の対談

・ 10 月 17 日 (水) 本展監修 文化庁美術学芸課主任調査官 原田昌幸氏による講演会

○ 東京国立博物館学芸員によるギャラリートーク

10 月 26 日 (金) , 11 月 9 日 (金) , 11 月 23 日 (金) , 12 月 7 日 (金)

その他、縄文をテーマにした子供向けワークショップ (日程未定) など、充実した関連イベントを企画しています。

報道関係者からのお問い合わせ先 :

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当 : 浅野憲央 (070-3190-3708) 、川合遼星、松瀬恵子

住所 : 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 FAX : 03-5413-3050 E-mail : japonismes2018@ssu.co.jp

■「若冲一〈動植綵絵〉を中心に」展

～欧州初の本格的な若冲展。

9/15～10/14 にプティ・パレ美術館で開催～

江戸中期の京都で活躍した絵師、伊藤若冲（1716～1800）は、近年日本国内でも一大ブームとなっています。本展覧会では、その若冲の最高傑作である花鳥画、《動植綵絵》全 30 幅を欧州で初めて披露、京都・相国寺蔵《釈迦三尊像》とともに展示いたします。展覧会では、《動植綵絵》と共通する昆虫や花、動植物をモチーフとしつつも、白と黒の明確な対比でデザイン的な面白さを表現した拓版画『玄圃瑤華（げんぽようか）』をあわせて展示します。



伊藤若冲〈老松白鳳図〉（動植綵絵30幅のうち）
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

- 会期：2018年9月15日（土）～2018年10月14日（日）
- 会場：パリ市立プティ・パレ美術館
（Avenue Winston Churchill、パリ市8区）
- 主催：国際交流基金、日本経済新聞社、宮内庁、
パリ市立プティ・パレ美術館/パリミュゼ
- キュレーター：太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官）、
マヌエラ・モスカティエツロ
（パリ市立チェルヌスキ美術館日本美術担当）

■関連イベントのお知らせ

会期中、講演会等の関連イベントを実施します。会場は、プティ・パレ美術館オーデトリウム（182席）、当日先着順です。

- 9月15日（土）14:00～ 開幕記念講演会
辻惟雄、小林忠、太田彩、ユキオ・リピット、マヌエラ・モスカティエツロ（予定）
- 9月26日（水）12:30～
「伊藤若冲 神の手を持つ男 18世紀の日本画家」／講師：マヌエラ・モスカティエツロ（本展キュレーター）
- 10月3日（水）12:30～
「画師としての才、禅師としての画家」／講師：ジャン＝ノエル・ロベール（コレージュ・ド・フランス教授）
- 10月10日（水）12:30～
「京都の三奇人 伊藤若冲、曾我蕭白、長沢芦雪」
講師：エステル・レグリ＝パウエル（フランス国立東洋言語文化学院[イナルコ]日本研究部副部長）
- 10月13日（土）15:30～
「伊藤若冲—その生涯と《動植綵絵》の妙技」／講師：太田彩
- 10月13日（土）14:30～及び16:30～
林英哲による和太鼓コンサート 於 南ギャラリー

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■安藤忠雄展—挑戦—

～昨年大好評を博した国立新美術館での展覧会に続き
ポンピドゥ・センターにて大規模個展を開催！～

国際的に著名な建築家、安藤忠雄(1941-)は、デビュー以来、常にその斬新な作品で建築界に衝撃を与えてきました。

2017年、国立新美術館（東京）で開催された「安藤忠雄展—挑戦—」は、約30万人を動員し、建築展としては異例の高い関心を集めました。このたびジャポニスム 2018では、本展を再構成し、パリのポンピドゥ・センターにて開催します。

半世紀に及ぶ安藤建築の軌跡、そしてこれからの展望を、「空間の原型」「都市への挑戦」「風景の創造」「歴史との対話」という4つのセクションに分け、模型、スケッチ、ドローイングや映像、写真など、多数の貴重な資料を通して紹介します。中でも安藤の代表作のひとつ「光の教会」のファサードの再現、国立新美術館の展覧会においても大きな注目を集めた「直島プロジェクト」のインスタレーションなど、見どころの豊富な展覧会となります。

フランスにおいて近年とりわけ人気の高い日本の建築の魅力をパリ、さらには世界に向けて発信します。



安藤忠雄〈光の教会〉 大阪府、1989年、撮影：松

- 会期：2018年10月10日（水）～12月31日（月）
- 会場：ポンピドゥ・センター
(Place Georges-Pompidou, パリ市4区)
- 主催：国際交流基金、ポンピドゥ・センター、安藤忠雄建築展実行委員会
- キュレーター：安藤忠雄、フレデリック・ミゲルー

■建築家コメント

激動する現代社会、時代のうねりの中で、この先、建築にどのような未来が待ち受けているのか、いまだ確かな道筋は見えません。が、建築をつくる手段がいかに変わろうとも、その姿形がドラスティックな変化を遂げようとも、建築にはモノとしての存在を超えて場所と人間に働きかける力があるということに、その力がときに予定調和を突き破り、新しい価値を人間社会にもたらし得るということに、変わりはないでしょう。

建築とは何か。誰のために、何のためにつくるのか。

結局、建築の未来を切り開くのは、その創造の根幹に立ち返り、建築の原点を見つめ直す思考でしかありません。

まだ見ぬ未来の建築を想い、考え続ける——もう半世紀繰り返したこの終わることなき挑戦を、今なお、飽きることなく、私は続けています。

安藤忠雄

ポンピドゥ・センター広報お問い合わせ先：

Ms. Anne-Marie Pereira
anne-marie.pereira@centrepompidou.fr
TEL: +33- (0)1 44 78 40 69

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子
住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル
TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■「ジャポニスムの150年」展

～工芸・ファッション・デザインを通して見る、 日仏交流の150年～

パリ装飾美術館の10,000点を超える日本美術コレクションから厳選された作品を中心に、日本から出品される近代の美術工芸作品と、現代の名工やデザイナーらの作品を展示し、19世紀後半から今日までの150年にわたる日仏両国の芸術の相互交流に焦点をあてます。

「発見者」「自然」「時間」「革新」「動き」という5つのテーマに沿って、美術工芸品からプロダクト・デザイン、グラフィックアート、ファッション、写真を含めて幅広い芸術作品がジャンルを横断して展示されます。

- 会期：
2018年11月15日（木）～2019年3月3日（日）
- 会場：
装飾美術館（107-111 rue de Rivoli, パリ1区）
- 主催：
国際交流基金、装飾美術館
- 協賛：
H&M、株式会社資生堂、株式会社TASAKI、YKK株式会社
- 協力：
Heart and Crafts
- 総合監修：
オリヴィエ・ガベ（装飾美術館長）
- キュレーター：
ベアトリス・ケット（装飾美術館アジアコレクションキュレーター）
川上典季子（ジャーナリスト、21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター）
諸山正則（工芸史家、前東京国立近代美術館主任研究員）
- アドバイザー：
コシノジュンコ（デザイナー）



IKKO TANAKA ISSEY MIYAKE, NIHON BUYO, SHARAKU, 2015 PHOTO: FRANCIS GIACOBETTI



山崎覚太郎 <猿時絵風爐前屏風>, 1939年
東京藝術大学大学美術館所蔵

■キュレーターからのコメント

日本の美意識や芸術における革新的な精神に焦点をあてると同時に、時代をひらく創造の力そのものの大切さに対する想いも、パリ装飾美術館のキュレーターと共に、本展に込めることができました。現代の工芸の若き担い手たちの豊かな感性と未来に向けた問い、独自の探究に支えられたデザイン分野の試みにも触れています。

川上典季子（本展キュレーター）

日本文化を表象した明治期の工芸やヨーロッパの美術と交流した昭和初期ごろの工芸、茶と工芸、民藝、伝統工芸、現代の造形といった、美術工芸のプロットやムーブメントを象徴的に代表する重要な工芸作品を出品します。歴史的な視点ではなく、5つのテーマに沿った構成とすることで、日仏の芸術の交流と相互の文化に対する関心をいっそう深めることでしよう。

諸山正則（本展キュレーター）

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■「明治」展 (仮称)

～フランスのコレクションから再発見する「知られざる日本」～

明治 150 年、および本展会場となるギメ東洋美術館の創設者であるエミール・ギメの没後 100 周年を記念して、明治時代をテーマとする美術展を開催します。

日本の歴史の中でも、あらゆる分野、特に文化において、もっとも重要な変革の時代であった明治時代。本展は、日本にとって激動の時代であった明治時代に、美術的な側面から焦点を当てます。

フランスのコレクションに含まれる日本の知られざる作品の再発見と、その価値へのフォーカスをテーマに、浮世絵、日本画、油彩画から、陶器、漆器、金工品、テキスタイルなどの作品を展示します。また欧州のコレクションからも重要な作品を加えて明治の芸術を紹介します。

- 会期：2018 年 10 月 17 日 (水) ～ 2019 年 1 月 14 日 (月)
- 会場：ギメ東洋美術館
(6, place d'Iéna, パリ市 16 区)
- 主催：ギメ東洋美術館
- 特別協力：国際交流基金



Brûle-parfum en forme de faucon
Sano Takachika (?-?)
Argent, or, bronze doré et laqué
Japon, vers 1890
H : 68,3 cm
Londres, collection Khalili
© The Khalili Collections of Japanese Art

■「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展

歌手、俳優といった活動にとどまらず、現代アーティストとして壁画、オブジェ、絵画、さらには自身の SNS など幅広いメディアを通じ常に表現活動を続け、大きな反響を得ている香取慎吾初の個展。

展示内容は、香取自身がそうであるように既成の枠にとらわれずあらゆる枠組みを超えていくものとなる。

「アートを題材にして NAKAMA とつながりたい」というコンセプトのもとに制作された絵画、オブジェだけでなく、ファッションや「弱さ」が「強さ」というコンセプトのもとフランス初上陸となる「ZUKIN【頭巾】」を何個もつなぎ合わせたドーム型の形をとる「新しい建築」とのコラボレーション作品も紹介する。

- 会期：2018 年 9 月 19 日(水) ～ 10 月 3 日(水)
- 会場：カルーゼル デュ ルーブル シャルル 5 世ホール
(99, rue de Rivoli, パリ市 1 区)
- 主催：株式会社モボ・モガ
- 共催：国際交流基金
- 後援：木下グループ
- 協力：ルーブル美術館



報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■その他開催中/開催予定の展覧会

○「井上有一 1916-1985 -書の解放-」展 ～南仏・アルビへ巡回！～

パリ日本文化会館で好評開催中の「井上有一 1916 - 1985 -書の解放-」展が、パリでの会期終了後、南仏・アルビのトゥールーズ・ロートレック美術館に巡回します。

- 会期：9月29日（土）～12月17日（月）
- 会場：トゥールーズ・ロートレック美術館
（Palais de la Berbie, Place Sainte-Cécile, アルビ市）
- 主催：国際交流基金、トゥールーズ・ロートレック美術館
- 特別協力：京都国立近代美術館
- 協力：全日本空輸株式会社、株式会社ウナクトウキョウ、一般財団法人世界紙文化遺産支援財団紙守



パリ会場の展示風景 © Gregorie Cheneau

○名和晃平 Throne ～ ルーブル美術館で大好評展示中！

ルーブル美術館・ピラミッドにて展示中の彫刻家・名和晃平による大型インスタレーション「Throne」は、フランスメディアの注目度も高く、大きな話題を呼んでいます。

- 会期：2018年7月13日（金）～2019年1月14日（月）
- 会場：ルーブル美術館・ピラミッド内
（Rue de Rivoli, パリ1区）
- 主催：国際交流基金、ルーブル美術館
- 協賛：高砂香料工業株式会社
- 協力：株式会社 SANDWICH



Throne ©Kohei NAWA | SANDWICH Inc.

○MANGA⇔TOKYO展

日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品が映し出してきた都市〈東京〉の特徴や変化を、多数の原画や模型、映像などでたどります。出品される約90点のコンテンツをとおり、都市〈東京〉の複合的体験を提供します。

- 会期：2018年11月29日（木）～12月30日（日）
- 会場：ラ・ヴィレット
（211 avenue Jean-Jaurès, パリ市19区）
- 主催：国際交流基金、国立新美術館、文化庁、マンガ・アニメ展示促進機構、ラ・ヴィレット
- 監修：森川嘉一郎（明治大学国際日本学部准教授）



イラストレーション：吉成曜

©Crypton Future Media, INC. www.piapro.net/ ©カラー/ ©武内直子・PNP・東映アニメーション/ ©秋本治・アトリエびーだま/集英社/ ©創通・サンライズ/ ©TOHO CO., LTD.

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

【広報用画像について】

各展覧会にかかる広報用写真をご用意しております。希望画像の作品名ならびに掲載予定媒体名、掲載予定時期を明記のうえ、下記担当者までご連絡ください。またリリースに掲載されていない写真につきましてもお問い合わせください。

※ご使用時の注意点とお願い

- ・写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ・トリミング、文字載せ、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・使用の際は確認のため、記事校正を PDF 形式でお送りください。

○「京都の宝」展



国宝 俵屋宗達筆《風神雷神図屏風》
京都・建仁寺蔵



重要文化財 俵屋宗達筆《舞楽図屏風》
京都・醍醐寺蔵



重要文化財

伝俵屋宗達筆・鳥丸光広賛

《菖の細道図屏風》京都・相国寺蔵



神坂雪佳図案 神坂祐吉作

《波に松喰い鶴》

京都国立近代美術館蔵



中村芳中《白梅小禽図屏風》 細見美術館蔵



本阿弥光悦 黒樂茶碗 銘 村雲 樂美術館蔵

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

○「縄文—日本における美の誕生」展



国宝<土偶 縄文のビーナス>
縄文時代(中期)・前 3000～前
2000 年
長野県茅野市棚畑遺跡出土
茅野市尖石縄文考古館保管



重要文化財<猪形土製品>
縄文時代(後期)・前 2000～前
1000 年
青森県弘前市十腰内 2 遺跡出土
弘前市立博物館蔵



国宝<火焰型土器>縄文時代
(中期)・前 3000～前 2000 年
新潟県十日町市笹山遺跡出土
十日町市博物館蔵

○「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」展



<雪中鴛鴦図> (動植綵絵 30 幅のうち)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



<諸魚図> (動植綵絵 30 幅のうち)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



<普賢菩薩像> 相国寺蔵

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

○安藤忠雄展—挑戦



〈直島 ベネッセハウス〉 香川県、1992年/1995年
撮影：松岡満男

○「明治」展



Vue d'ensemble du quartier français
de Yokohama
Utagawa Kuniteru II (1829-1874)
Estampe (ukiyo-e, nishiki-e)
Japon, 1872
35,7 x 73 cm
Paris, MNAAG, don Komorimiya (1999)
© RMN-GP (MNAAG, Paris) / Thierry Ollivier



Boîte à papier (ryoshibako) et
écrioire
(suzuribako) à décor de symboles
de bon augure
Shibata Zeshin (1807-1891)
Bois, laque rouge et laque d'or
(maki-e), nacre
Japon, vers 1860-1870
5 x 22,5 x 27 cm
Londres, collection Khalili
© The Khalili Collections of
Japanese Art



Paire de vases ornés d'oies
sauvages
Commande de la Maison
impériale
Tsukada Shukyo (1848-1914)
Émaux cloisonnés, argent, or
Japon, vers 1910
H : 34,7 cm
Londres, collection Khalili
© The Khalili Collections of
Japanese Art

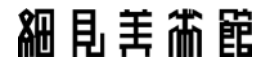
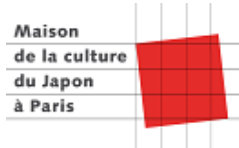
報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 FAX : 03-5413-3050 E-mail : japonismes2018@ssu.co.jp



報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp